

# 英語の授業における聞く力を高めるための WBT 教材の活用

藤代 昇丈\*, 平松 茂\*\*, 宮地 功\*\*\*

## The Utilization of WBT Courseware for Improving Listening Skills in English Class

Noritake FUJISHIRO\*, Shigeru HIRAMATSU\*\*, Isao MIYAJI\*\*\*

One of the main aims of English education at high school is to develop students' practical communication skills such as listening and speaking. However, it is difficult for one teacher to instruct every student individually in class. Therefore, in order to improve students' English proficiency, especially in listening skills, we developed English WBT courseware, which includes lots of video and sound clips for self-practice. Through utilizing it with pair or group activities in the process of 'Blended Learning' in face-to-face classrooms, we have studied the effectiveness of the instruction with WBT. The results of the research show that the students' level of the taxonomy of the cognitive domain toward 'Communication' was raised and that the listening ability of the students with low English proficiency was improved.

キーワード：WBT, 外国語教育, 英語運用能力, 発話モデル, ブレンディング学習

### 1. はじめに

高等学校での外国語（英語）教育における主たる目標の一つは、実際に英語を使って情報や相手の意向を理解したり、自分の考えなどを表現したりして通じ合うことができる力を育成することである。また、『『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想<sup>(1)</sup>および行動計画<sup>(2)</sup>』が国の施策として出され、英語の実践的コミュニケーション能力の育成は急務となっている。

学校教育における外国語（英語）教育について、音声軽視の傾向や一方的な文法訳読式中心の授業という問題点が指摘され、現在では音声に重点を置いた「個」に応じた指導が注目されている<sup>(3)</sup>。しかし、「聞く・話す」の音声面の技能を個に応じて指導することは、一斉授業において教師が生徒一人一人に対応できる時

間の制約もあり実現が困難である。

近年、「個」に応じた新たな語学学習の手段として注目されているのが、「いつでも、どこでも」時と場所を選ばず学習ができ、音声・動画を活用できる eラーニングである。eラーニングは教育の機会拡大や教育の質の向上、選択権の拡大、個別化教育の実現といった考え方に基づき、高等教育や企業で積極的に活用されるようになった<sup>(4)</sup>。深田ら<sup>(5)</sup>による Web 型自発学習促進クラス授業支援システムの英語学習における活用研究に見られるように、高等教育における自学習用 eラーニングの語学学習への導入や実践研究がなされている。一方、初等・中等教育においては、猪貝ら<sup>(6)</sup>による通信制高校における eラーニング化の試みや、植野ら<sup>(7)</sup>の大学と高等学校との間の協調型 eラーニングの研究といった取り組みは見られるものの、小学校、中学校、高等学校での通常の対面型授

\* 岡山県総合教育センター (Okayama Prefectural Center of Education)

\*\* 岡山市立藤田中学校 (Okayama Municipal Fujita Junior High School)

\*\*\* 岡山理科大学総合情報学部 (Faculty of Informatics, Okayama University of Science)

受付日：2007 年 11 月 29 日；再受付日：2008 年 6 月 23 日；採録日：2008 年 9 月 27 日